



国際感染症から成田を守る！

「千葉県衛生研究所成田センター」の設置を提案します。

コロナ等、国際感染症に特化した保健所機能を成田に。

うつのみや たかあき
成田市議会議員 宇都宮高明

私は、2020年9月議会でコロナ禍の中、「国際感染症に特化した保険所機能を成田に新設すること」を提案しました。市も設置は望ましいとされ、県に要望したところ、人口13万人の成田市が単独で設置することが難しいとの回答があったとのことです。この間私は、上昌広先生や厚労省OBの方々のご指導を頂き、成田市単独では政令改正が必要なので、現実的には既にある千葉県衛生研究所の出先として「千葉県衛生研究所成田センター（図1）」を作るのが適切であるとのご提言を頂きました。

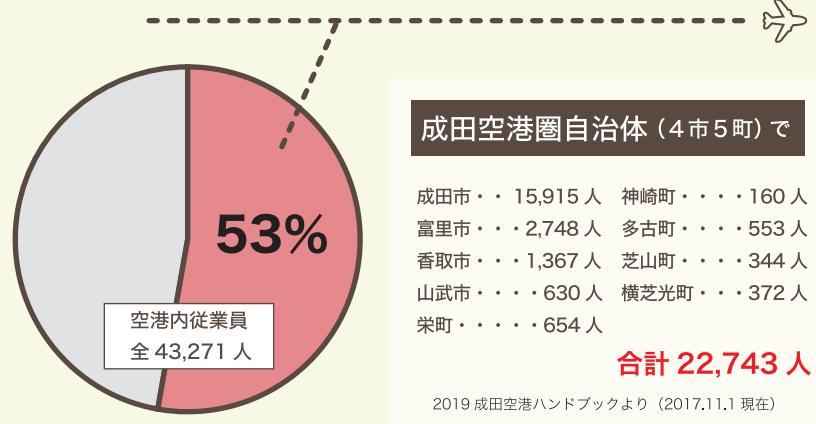
この成田センターは、印旛保健所成田支所業務のうち国際感染症関係業務を実質請け負うことになりますが、千葉県との業務分担と費用負担の整理がつけば、成田空港圏での設置は可能であるとのことです。特に国際医療福祉大学医学部が開学され、実績のある成田赤十字病院、成田医師団との連携等医療資源が充実していることも設置の可能性として上げておられました。

図2のとおり現在空港内従業員4万3千人の53%は、空港圏9市町の住民であり、空港の更なる機能強化により7万人と予想されている空港内従業員の国際感染症対策の為にも

2

成田空港で働く従業員数

約 23,000 人は空港圏 9 市町の住民です。



3年におよぶコロナ禍の教訓を活かし、今度こそ、国はしっかりとした体制づくりを。

ここで、取り上げている新聞記事は、2020年6月9日の日経新聞の一面です。厚労省が2009年の新型インフル収束後にまとめた反省点として、6項目が取り上げられていました。しかし、記事にも書かれているとおり、「11年前の教訓放置」により今回のコロナ騒動となってしましました。今度こそ、国は国際感染症に対応するしっかりとした体制づくりを作るべきであり、国民もしっかりと監視を続ける必要があります。

(宇都宮高明)

この 10 年間で取り組んでいれば・・

(厚労省が2009年の新型インフル終息後にまとめた反省点)

- 対策の選択肢を複数用意
 - 危機管理の専門体制強化
 - PCR 含む検査体制強化
 - 国民広報扱う組織の新設
 - 臨時休校のあり方の検討
 - ワクチン生産体制の強化



2020年6月9日の日本経済新聞の1面

❖ 新成田空港が、より一層魅力ある空港となるために。

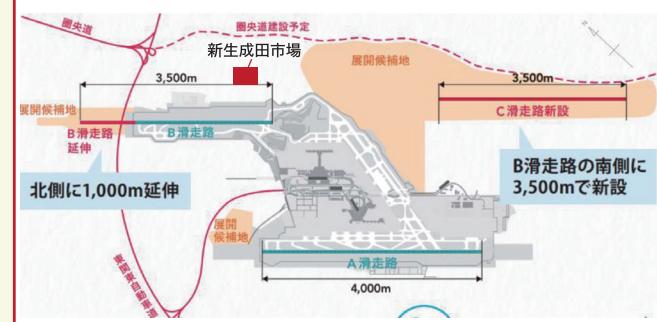
新生成田市場周辺に自由貿易地域の創設を!!

成田市は、2013年に空港都市づくりの一環としてエアポート都市構想を国に提出しています。この柱の一つが、「自由貿易地域」の創設です。その核となる施設として、市税120億円(総工費140億)を投入して農水産物の輸出手続きが1ヶ所で行われる国内初の施設として新生成田市場を

昨年1月に完成させました。

これを受けて国は、空港周辺の物流拠点整備のため「地域未来投資促進法」の弾力的な活用により、農地法の規制を緩和し運用を県が行えるようにしました。そこで、輸出入貨物に関する税を課さないなど、税法上の優遇をする自由貿易地域を新市場周辺に、ます

新成田空港概要図 空港面積 2,300ha (現在 1,200ha)



は創設することが、市のみならず国の産業政策の大きな力になると考えています。

(宇都宮高明)

❖ 先生に学ぶゆとり、教えるゆとり、生活のゆとりを。

1492年と言えば?

海外留学は先生の必須科目

ロシアによるウクライナ侵略が始まっていますから、2月24日で1年となりました。ロシアの暴挙が、文明が進んだはずの21世紀の世界でも、明白な侵略戦争が起きる事実を示しているのにかかわらず日本では「祖国を守る」をどこか別の世界のように捉えられている感じがしています。

戦後の日本では、外国の侵略からどう国を守るかという真剣な問い合わせは忌避されてきたのが実情です。しかし、国際秩序が揺らぐ中で、ウクライナが直面している過酷な現実を、私たち自身が自分に引きつけて考えることが大切です。そのためには、先ずは教育現場をあずかる先生方の「見方・考え方」はますます重要な

なってきていると考えています。20数年しか経っていない21世紀ですが、歴史の分水嶺に立つ今日、日本をしっかりと見据え「世界地図の中で考える」ためにも、海外留学は先生の必須科目です。

私の体験から、「多様なものの見方・考え方」を綴ってみました。



日本・メキシコ政府交換留学生(1972年~73年)
の研修終了時、大統領官邸にて
当時のエチエベリア大統領と(1973年)

多様なものの見方・考え方

『1492年コロンブス新大陸発見』

私が中学校で学んだ世界史の一項目です。1972年から約1年間政府交換留学生としてメキシコで学んだ私にとって「1492年」のアメリカ大陸は、ヨーロッパ人のコロンブスにとって、新大陸であり発見した年であります。

しかし、マヤ・アステカ文明を築いてきたネイティブアメリカンにとっての「1492年」は、その後自分たちの土地を追われ滅ぼされていった出発の年と捉える事もできます。東洋の日本人である私にとっての「1492年」は、ヨーロッパ人のコロンブスとネイティブアメリカンの出会った年との見方も学びました。

(宇都宮高明)

うつのみや高明の歩み



歩み

1946年12月生
愛媛県西予市明浜町出身

• 1969

新東京国際空港公団入社。

• 1986

長嶋茂雄理事長のもとに発足した花と緑の農芸財団設立に携わる



1969 1970 1980 1990 2000 2010 2012 2015 2018 2019 2020 2021 2022 2023

• 1972-73

日本・メキシコ政府交換留学生

• 1971

成田空港
土地収用に伴う立ち入り調査



宇都宮高明

• 2012

「シカゴ大学訪問医学部新設へのご指導をいただく」
シカゴ大学医学部教授 中村祐輔氏



シカゴ大学中村研究室にて

• 2019

研修会開催
『あなたに適したがん治療で生活の質の向上を』
がん研究会所長 中村祐輔氏

研修会開催

『あなたに適したがん治療で生活の質の向上を』
がん研究会所長 中村祐輔氏

• 2020 研修会開催

『成田空港の現状と成長戦略』
成田国際空港株式会社社長
田村明比古氏

• 2022 研修会開催

『世界の新型コロナウィルスの現状と我が国の今後とるべき対応』
元WHO事務局長上級顧問
渋谷健司氏

そして、2038年
成田山開基1100年を見据えての成田の創造

• 2011

第36代成田市議会議長
千葉県市議会議長会会長
関東市議会議長会副会長

• 2004

第30代成田市議会議長
十一代目市川海老蔵襲名披露成田山お練り



• 2018 研修会開催

「国の航空対策における成田国際空港の今後」
前国土交通省事務次官
武藤浩氏

• 2021 研修会開催

『新型コロナウィルスの現状と今後』
医療ガバナンス研究所理事長 上昌広氏



• 2023 研修会開催

『新しい成田空港と成田の今後』
一橋大学名誉教授 山内弘隆氏



○昭和21年12月生 愛媛県西予市明浜町出身 ○中央大学卒業後、新東京国際空港公団へ入社

○日本・メキシコ政府交換留学生として約1年間メキシコに留学

○新東京国際空港公団労働組合委員長 ○日本青年会議所千葉ブロック会員大会委員長

○成田市議会議長(第30代・第36代) ○千葉県市議会議長会会長 ○関東市議会議長会副会長

○成田市議会議員(9期) ○千葉県地方議員連絡協議会会長代理 ○自治体学会議員研究ネットワーク幹事

○花と緑の農芸財団理事 ○成田ユネスコ協会副会長 ○成田ニュータウン自治会連合会副会長

○成田ニュータウンスポーツ連盟事務局長 ○中央大学北総白門会会長

○成田コスモポリタンロータリークラブ会員 ○構想日本会員